

笑ってごらん

第 515 号 H. 27. 6. 3 発行

～今日のことば～

悲しみも、喜びも、感動、落胆も、
常に素直に味わうことが大事だ。

本田技研工業創始者：本田宗一郎

◇◆5月30日(土)、青少年赤十字の校長・教頭・指導主事等対象研修会に参加した。私は、過去数年間、県青少年赤十字指導者協議会副会長の職を務めたことがある。それ故、赤十字のことに關してはそこそこの知識があると思っており、毎年入学式後に実施する JRC 登録式においても自分で講話していた(他校では講師として県青少年赤十字賛助奉仕団の方をお願いをしている)。今年も例年通り講話はしたものの、どうも自分の中で何かスッキリしない。知識の薄れを感じたのだ。そこで、タイミングよくご案内のあった(例年は8月実施だが、参加し易い日程をいろいろ模索中)同研修会への参加を決断したのである。 ◆会場に着くや否や、「お久しぶり!」・「元気にしてましたか?」など顔見知りの先生方から声をかけられた。



特に、賛助奉仕団の先生方(大半が校長先生を経験された退職者)とは JRC の PR 目的で未加盟校と一緒に訪問したことがあるので、早速、当時の苦労話に花が咲いた。 ◆研修は施設見学から始まった。以前も赤十字会館へは何度も訪れてはいるが、1階にある血液センター内には初めて立ち入った。当たり前なことではあるが、採血バッグが血液型別に一定温度で管理されていた。別な冷蔵庫には血小板(黄色)バッグが寝かせた状態で終始揺すられていた(血小板は凝固し易い)。冷凍庫には血漿が-10℃以下で保管されていた。同センターには県内の病院から輸血に使う血液の注文電話が入り、在庫がある分は即配達するシステムになっている。私自身初耳だったことは、私達が献血によって提供した血液は、そのままダイレクトに必要な病院へ配達されるのではなく、毎日2便、福岡県のセンターへ輸送し使用可能な血液かどうか検査すること。血液はおおよそ24時間後には鹿児島に戻ってくるので、その後、必要とする病院へ配達するらしい。血液センターに続いて資材倉庫も見学した。たくさんの救援資材が備蓄されていることに驚くと同時に、これらの備えがあるから災害時にもある程度迅速に救援活動が行えるのだとわかった。最近起こった自然災害といえば、口之永良部島の爆発的噴火。住民全員が隣の屋久島へ避難した。その際、日本赤十字鹿児島県支部から毛布や緊急セット(タオル・ティッシュ・軍手・コップ・ガーゼ等)を救援職員とともに贈ったという。「防災教育プログラムの実態」という研修では他校の校長先生方と災害発生時の避難誘導のあり方や非常時に備えて日頃から備えておくことなどについて意見交換した。地域性や地理、学校周辺の環境などがそれぞれ異なるため、統一した完全な「正しい答え」がある訳ではない。難しさを感じながらも、このような勉強会に参加できたことは大変意義深かったと思っている。 ◆災害はいつ何時どんなことが起こるかわからない。「自分の身の回りでは起こらない」なんていう保証は無いのだ。日頃から備えは万全にしておこう。

感謝道

◇◆校長室前の廊下には毎日の欠席数を記入する黒板がある。毎日、教務部長の川野先生が確認し記録している。先日、5月分の欠席集計表が届いた。それを見ると、現在まで無欠席を続けているクラスは1年8組と3年11組。今後も記録を更新して欲しい。 ◆実のところ、「欠席数」は就職の際に最も重要なデータとなってくる。

採用側はこの「欠席数」を見て、受験者が頑張ってくれる人であるか、仕事を任せられる人であるかどうかを見極めるのである。欠席が多いということは、「仕事に穴を空けることが予測される」ことを意味する。そういう観点から「不採用」となるケースも多くある。まずは日頃から健康管理をしっかりしよう。